## 1082　ソマトスタチン受容体イメージング（Octreo-Scan）：カルチノイド腫瘍における臨床的有用性

倉敷中央病院・放射線科　渡辺祐司、佐賀恒夫、
道家雅子、天羽賢樹

Octreo-Scanは、DTPAを介してIn-111標識したソマトスタチン類似物質を用いるソマトスタチン受容体イメージングである。今回、遠隔転移を有するカルチノイド腫瘍２症例（直腸原発、肺原発）で、Octreo-Scanの有用性について検討した。【方法】Octreo-Scan 3mCi静注後、4、24、48時間のシンチグラム、SPECTを撮像し、体内分布、腫瘍集積性、至適撮像時間について検討した。【結果】腫瘍は原発・転移巣計13部位（13/16:83%）で陽性描画され、2cm以上の腫瘍は全て陽性であった。【結語】Octreo-Scanはカルチノイド腫瘍の描出に有用で、将来RI治療への応用も期待される。

## 1083　$^{111}$In－ペンテトレオチドによるソマトスタチン受容体イメージングの臨床試験

木村利幸、阪原晴海、東　達也、本田豊彦、小西淳二（京大核）、猪熊哲朗（大阪逓信病院１内）、細谷　亮、大塩学而、今村正之（京大１外）

$^{111}$In－ペンテトレオチドを用いるソマトスタチン受容体イメージングの臨床試験を、組織診断の確定したガストリノーマ２例、胃カルチノイド１例、臨床的に胃十二指腸動脈領域にガストリノーマの存在が疑われる１例の計４症例を対象に行った。ガストリノーマの２例では原発巣、肝転移巣に$^{111}$In－ペンテトレオチドの良好な集積がみられた。うち１例ではCT、MRIでも検出されていなかった肝転移巣が陽性に描出された。胃カルチノイドの１例、ガストリノーマ疑診例の１例は陰性であった。本検査法は、ソマトスタチン受容体を有する腫瘍の診断に有用と思われた。

## 1084　ソマトスタチンレセプターimaging製剤$^{111}$In－ペンテトレオチド(MP 1727)の使用経験

谷淳至、中別府良昭、土持進作、中條政敬（鹿大・放）
吉永利彦、禧久豊嗣 (同・放部)

MP 1727はソマトスタチンレセプターimaging製剤であり、ソマトスタチンレセプターを有する多くの腫瘍に集積するとされている。この製剤を悪性ガストリノーマ患者に使用する機会を得たので報告する。　患者は51才女性で、膵のガストリノーマ術後の肝転移例である。肝転移巣に対して過去５回の動注療法が施行されていた。当大学の治験委員会の承認、患者のインフォームドコンセントを得た後、検査を施行した。MP 1727を80.3 MBq投与後3,24,48時間目に全身像、腹部スポット像、および24時間目にはSPECT像も撮像した。　明らかな副作用は認められなかった。いずれの撮像においても肝の転移巣が2ヶ所明瞭に描出された。MP 1727は、ソマトスタチンレセプターを有する腫瘍の検出やviabilityの評価に有用と考えられた。

## 1085　$^{111}$In-octreotideによる腫瘍イメージングの経験

石橋了知、佐藤浩三、三宮敏和、中村佳代子、橋本　順、久保敦司　（慶大放）

$^{111}$In-octreotideによる腫瘍イメージングはソマトスタチン受容体を有する消化器ホルモン産生腫瘍等の局在診断に有用と期待されている。今回、インスリノーマ症例および転移性カルチノイド腫瘍症例に$^{111}$In-octreotideによるイメージングを施行する機会を得たので報告する。投与量は111MBqで、投与後４、24、48時間後に全身像、スポット像およびSPECT像を撮像した。４時間像ですでに腫瘍は描出されたがやや血中バックグラウンドが高く、24時間像が最も良好であった。インスリノーマ症例では膵尾部1.5cm径の小さな腫瘍が特にSPECTで明瞭に描出され、カルチノイド症例では全身イメージングにより骨、肝などの転移巣の把握が容易であった。

## 1086　$^{99m}$Tc-MIBIによる分化型甲状腺癌転移巣の検出

竹田芳弘，中川富夫，新谷直道，原田義弘，佐藤修平，清水光春，栄　勝美，新屋晴孝，平木祥夫（岡大放）

分化型甲状腺癌の転移巣検索における$^{99m}$Tc-MIBIの有用性について検討した．対象は転移巣を有する分化型甲状腺癌6例で，原発巣手術時の組織型は乳頭癌4例，濾胞癌2例である．男性3例，女性3例で，年齢は24歳から64歳までである．転移巣はリンパ節転移，骨転移で，肺転移についてはびまん性転移を示したものが多かった．$^{99m}$Tc-MIBI(600MBq)静注後15分から全身像とスポット像を撮像した．$^{131}$Iおよび$^{201}$Tlによる病変の検出能と比較した．骨転移巣，リンパ節転移巣は良好に検出された．びまん性肺転移巣はMIBIでの評価は困難で，$^{131}$Iシンチグラフィによる検出が容易であった．$^{99m}$Tc-MIBIはヨード制限を要さずに転移の検出が可能で、$^{201}$Tlと同等の検出能を持っており有用と思われた．

## 1087　$^{99m}$Tc-MIBIによる肺癌リンパ節転移巣の検出

小野寺祐也、久保田　恒、高橋和榮、安久津　徹、駒谷昭夫、山口昂一（山大放）

術前のCTと$^{99m}$Tc-MIBI SPECTを対比し$^{99m}$Tc-MIBIによる肺癌リンパ節転移巣の検出能を検討するとともに術後の病理結果とも比較検討した．対象は1994年12月から1995年3月までに手術を施行された肺癌20症例である．$^{99m}$Tc-MIBIを1850MBqを投与後SPECTを撮像した．CTにて転移巣と思われたリンパ節は全て描出された．手術にて転移が確認されたリンパ節には全例$^{99m}$Tc-MIBIの集積が見られた。実際に転移のないリンパ節にも集積し有無だけで転移を評価することは困難であった。そこで肺野および縦隔のバックグラウンドとのカウント比をとり検討したところ比が2.0を超えるものはほぼリンパ節転移が見られた。$^{99m}$Tc-MIBIは転移巣の評価に有用である．

Presented by Medical*Online